

# 成長・貢献・感謝

## 動きづらさを体験して

羽地中学校  
学校だより144号  
R1. 12. 6



1年生は先月18日(月)、総合的な学習の時間を活用して、介護福祉体験を実施しました。名護市福祉協会の皆さんのご協力とご支援の下、学級ごとに車椅子体験、アイマスク体験、豆つかみ体験、高齢者疑似体験をローテーションで体験していきました。

高齢者疑似体験では、両手・両足にオモリを巻き、腰が曲がるように調整されたベルトを首から膝まで引っ張り、アイマスクで視界を狭くして、支援者の介助を受けながら歩くことを体験していました。中学生なので体力は十分あるし、数分間の体験でしたが、一日中、このような動きづらさのもので生活していると想像すると、高齢者の動きづらさや



気持ち理解できるのではないのでしょうか。また、介助者は、どのような支援が必要か、どのように介助したら良いのか、を考えるきっかけになったと思います。豆つかみ体験では、アイマスクと軍手を装着して、マカロニの中にある小豆を箸でつかみ移す体験



です。マスク・軍手なしでも行い、違いも体験していました。手先の感覚や視覚と脳と手首の活性化のためにも活用される運動です。アイマスクや軍手をしたときの動きづらさや視野の狭さを改善、手助けするにはどのような方法があるでしょうか。



低いことが理解できたと思います。動きづらさを体験することで、私達の社会は今後、どうあるべきなのか提案していきましよう。

アイマスクをしての階段の上り下りや障害物を避けながら安全に歩行する体験では、視覚を制限されたことでの不安や移動するときの動きづらさを体験させてくれます。私達がいかに視覚という感覚に頼って生活しているかが分かります。同時に、どのような介助・手助けが必要なのかを教えてください。そして、バリアフリーです。車椅子体験では、車椅子を利用する人の動きづらさを体験することが出来ます。手すりを使って動かすことはできても、段差のある廊下や通路、スロープの設置がない通路、砂利道や雑草の生えた道を通るときは、動きづらさを感じたことでしょうか。階段では、一人で上り下りすることはかなり難しいことでしょうか。車椅子で視線が低いことも実感でき、危険を知らせる掲示物や案内板の位置なども